

2021 Value of IT Certification Report

- 2021年度 IT 認定資格に関する調査 -

世界中の人々や組織の IT 認定資格に対する動機やその効果を 2 年ごとに調査しています。

目次

はじめに.....	1
エグゼクティブサマリー.....	2-3
調査結果	
認定資格取得を目指す理由.....	4-6
COVID-19の影響.....	7
受験者が得たメリット.....	8-16
雇用主が得たメリット.....	17-18
認定資格受験のトレンド.....	19-23
試験の準備方法.....	24
今後のプラン.....	25-28
結論.....	29
付録.....	30-33
Pearson VUEについて.....	34



逆境に立ち向かう。 変化に適応する。 自信を持って未来を見据える。

私たちは近年例の無い過去1年を通して不確実性へ対処する方法について多くを学びました。忍耐力を養うこと、困難を乗り越えること、逆境に立ち向かうことなどです。また、私たちがいかに相互につながっているかを学び、そして私たちは、何もない時間を何か前向きなもので埋めようと奮闘してきました。

世界的なパンデミックの初期には、テクノロジーが非常に重要な役割を果たしました。テクノロジーは私たちに情報を与え、教育し、繋げ、楽しませ、そして多くを可能にしました。企業は数日のうちにリモートチームを立ち上げ、学校はオンラインになり、誰もがビデオ会議を経験しました。

そして、IT業界はすぐさま前を向いて動き始めました。

不安と恐怖のもと、無限に続くかのような無為な時間の中で、IT業界の人々は、状況を観察し、計画を立て、学習し、そして目標を達成していったのです。

もちろん、計画の変更や達成できるかぎりぎりの目標もありました。それでも挑戦すべき資格試験は数多くあり、多くの人々が目標を達成し、勝利を手に入れました。

新しいテクノロジーを学んだ人もいれば、あまり知られていない分野を再度学んだ人、また、履歴書の空白を埋めるためにスキルアップした人もいました。そして多くが雇用主による費用負担無しに、すべて彼ら自身で実践したのです*。

今年のValue of IT Certification調査のデータを分析したところ、結果には明確な共通点がありました。それは、受験者がIT認定資格に価値を置き、目標達成のために持続的な努力をしていることです。

最終的には、これは個人およびプロフェッショナルとして苦境を乗り越え、将来を見据え、生涯にわたり学び続けることにコミットしていることを、私たちに物語っています。

今年の調査結果を見て、私たちはこの上ない喜びを感じました。その理由をご紹介します。

これは、個人および
プロフェッショナルとして
苦境を乗り越え、
将来を見据え、
生涯にわたり
学び続けることに
コミットした人々の
ストーリーです。

* 今後数年のうちに、企業が認定資格のメリットを認識するようになれば、この状況も変わってくると思われます。この点については、今後のレポートを楽しみにしてください。

概要

2020年、Pearson VUEは世界中で何百万ものIT認定資格試験を配信しました。当社は、業界で認められている認定資格の価値について、それらの認定資格試験の受験者を対象に認定資格取得の動機やメリットなどについて調査しました。調査結果から、受験者がIT認定資格を取得する理由や、試験の準備方法、そしてもっとも重要である認定資格取得による個人的およびプロフェッショナルとしてのメリットを深く知ることができました。

2021年の **Value of IT Certification** 調査の結果レポートは、過去12ヶ月間にIT認定資格を目指した人や取得した29,000人以上の受験者から得られた洞察をまとめたものです。認定を目指す動機や、その結果として得られたことなどを探ります。過去に発表された6つのレポートを基に、受験者の視点から見た認定資格の価値の現状をまとめました。北米、中南米、中東・アフリカ、インド、中華圏、日本、およびその他の太平洋諸国の受験者がこの調査に協力しました。調査結果から見てくる彼らのストーリーや、調査により得られた洞察をぜひご覧ください。

過去12ヶ月間に
IT認定資格を取得した
もしくはそれに向けて準備を行った

29,000
の受験者
から得た洞察

主要な調査結果

1. IT 認定資格の需要は高まっている。

2020年にPearson VUEが配信したIT認定試験は、前年比16%増となりました。雇用主がトレーニングや資格取得のための費用を負担

試験配信数は前年比

16%
の増加

する傾向が低くなり、受験者は資格取得のために自ら時間や費用、努力を費やしたことが、調査データで明らかになりました。ほぼ全ての受験者が自身の力で試験に挑

んだことがわかります。

2. IT 認定資格は生涯をかけて追求し続けることができる。

ほとんどの受験者は、キャリアをスタートするまでIT認定資格を考慮していませんが、取得した認定資格の数は時間とともに蓄積されます。24歳以下の受験者は平均で4つの認定資格を保有しているのに対し、55歳以上の受験者は10の認定資格を保有しています。2020年に認定資

86%
の受験者は

今後さらなる認定資格の取得を計画

格を取得した受験者のうち、86%が今後12カ月間にさらに認定資格取得を目指す」と回答しました。

3. IT 認定資格を目指す一番の動機はスキルアップへの意欲。

テクノロジーの進歩についていくことが強い動機となり、73%の受験者が必

73%
の受験者は
必要なスキルを得るために
IT認定資格を追求

要なスキルを身につけ、仕事の成果を高めるためにIT認定資格取得を目指しました。また、COVID-19のパンデミックによりテクノロジーへの依存度

が高まったことで、30%の受験者が認定資格取得を目指した理由としてITスキルの緊急性が高まったことを挙げました。

4. IT 認定資格は、取得者とその雇用主に多大な投資対効果をもたらす。

10人中**7**人が
目標を達成

10人中7人の受験者が目標を達成し、キャリアアップをしたいと考えている人に認定取得を勧めると回答しました。多くの人が新しい

仕事(36%)、昇給(28%)、昇進(21%)という結果を得ました。雇用主もまた、仕事の質、生産性、効率性、および他の人を指導する能力の向上など、直接的かつ有益な影響を実感しています。

IT認定資格を 追求する理由は？

スキルアップへの 意欲 **73%**

受験者の多く(回答者の73%)は、IT認定資格を取得する理由として、特定のスキル、知識、またはコンピテンシーを身につける必要があることを挙げています。多くの人が「仕事をする上で特定のスキルが必要になった」、「進化するテクノロジーに対応するために必要だと感じた」など、スキルアップが優先だったと述べています。

Global Knowledgeが発表した『*2020 IT Skills and Salary Report*(2020年 ITスキルと給与に関するレポート)』では、「スキル開発プログラムを超えるテクノロジーの変化の速さが、組織のスキルギャップの主要な原因となっている。」と述べ、開発プログラムだけでは、企業を適切にスキルアップさせることはできないと指摘しています。



プロフェッショナルとしての プロフィールの強化 56%

次に重要な動機として挙げられたのは、プロフェッショナルとしてのプロフィールの強化でした。半数以上(56%)は、IT資格を追加することで履歴書を更新し、インパクトを強めることができると考えています。

“私はかなり長い間、昇進することを追い求めてきました。
自分自身を高めようと決意し、Blueprint認定資格を取得
しました。これが、コロナ禍にあるどのビジネスにとっても
厳しい時期に昇進できた理由のひとつだと思います。”

– Facebook Blueprint Business Skills 認定ホルダー (オーストラリア)

昇格や昇進のため 56%

新しいスキルや知識を習得することで、現職における昇格や昇進のチャンスを得るためにIT認定資格を取得したと回答した受験者も56%でした。



転職のため **26%**

26%の受験者は、さらに大きな視野で、まったく新しいキャリアを求めています。この回答は、インド、中東・アフリカ、および北米において他の調査対象国よりも多く見られました。

さらに、受験者の13%は雇用されていない、または現在仕事をしていないため、認定資格取得によって、よりよい仕事の機会を得ようとしています。このような動機を持つ人は、中東・アフリカで著しく多くいました。

特定のIT分野への転職に対する関心は、中華圏(53%)と中東・アフリカ(40%)で最も高くなっています。

日本の傾向は世界の平均と最も異なっており、転職の希望が低く(14%)、職務上の要件を満たす必要性が高い(22%)という結果になりました。

IT関連の認定資格を目指そうと思ったきっかけは何ですか？

上位の動機	グローバル	北米	中南米	中東・アフリカ	インド	中華圏	日本	その他アジア太平洋
技能、知識または能力を身につけるため	72.5%	67.6%	75.6%	75.5%	73.0%	67.1%	73.6%	74.8%
専門的なプロフィールや履歴書を充実させるため	56.8%	59.4%	68.2%	63.0%	61.0%	51.7%	29.5%	63.6%
現職での昇進や昇格のため	56.2%	50.1%	64.7%	53.7%	60.7%	61.7%	43.1%	59.3%
特定のIT職を得るため	32.4%	25.3%	24.4%	40.0%	33.6%	52.5%	16.9%	34.8%
転職のため	26.2%	30.8%	25.0%	31.6%	30.6%	22.7%	14.0%	27.9%
仕事や学校の要件を満たす必要があるため	19.7%	23.0%	15.5%	15.2%	12.2%	30.7%	22.7%	19.8%
就職のため(未経験/無職)	13.4%	15.9%	8.1%	21.8%	16.2%	13.8%	4.4%	13.5%
プログラムや大学入学のための出願を補完するため	5.6%	4.5%	6.4%	7.2%	7.9%	5.8%	0.9%	6.5%

COVID-19は 動機になりましたか？

COVID-19のパンデミックが認定資格取得を目指す意思決定に影響したかどうかを尋ねたところ、30%が影響したと答えました。COVID-19のロックダウンにより時間的余裕ができたと答えた人が多く、一方で仕事の安定性を心配する声もありました。また、リモートでの勤務や学習のためのテクノロジーへの依存度が高まったことで、受験者は関連分野のスキルを身につけることが急務となりました。



COVID-19のパンデミックはIT認定資格取得への関心に影響しましたか？

	グローバル	北米	中南米	中東・アフリカ	インド	中華圏	日本	その他アジア太平洋
はい	30.4%	23.7%	30.1%	34.6%	38.6%	18.4%	31.0%	39.2%
いいえ	69.6%	76.3%	69.9%	65.4%	61.4%	81.6%	69.9%	60.8%

注：2020年3月から10月に試験を受けた受験者を含む

“COVID-19の期間中に自宅で仕事をしたことで、認定取得に向けて集中してスキルアップに取り組むことができました。自分の時間を活用し、認定を取得することができました。”

– シスコ技術者認定ホルダー（インド）



受験者が得たメリット

新しい認定資格を取得することは、それ自体が達成感のあることですが、アンケート回答者の多くにとって、認定資格は別の目的を達成するための手段でした。これらの回答者は意欲的な第一目標を設定しており、ほとんどの回答者が認定資格取得によってさまざまな恩恵を受けたと答えています。昇給や昇進といった目に見える成果から、同僚からの信頼が高まったことや仕事への満足度の向上といった個人的な成果まで、これらの主要な目標は、通常、意図的に設定されるものですが、認定資格取得によって予想外のメリットももたらされました。



認定資格による 金銭的なメリット

受験者の中には、より多く収入を増やすことが最終的な目的となる人もいました。その結果、28%の人が認定資格取得後に給料が上がったと回答しました。前回のレポートから7%減少となり、これは、パンデミックの間、ビジネスのやり方がより儉約的になったことによるものと思われます。また、調査時点ではまだ昇給していないが、期待していると答えた人は42%いました。

“アーキテクト認定資格を取得後に受けた主なメリットは、昇進と昇給でした。それ以外にも、自分のプロジェクトにおいて、仲間や経営陣からも信頼されるようになりました。”

– Dell 認定資格ホルダー (インド)



昇給した人のうち、

55% は資格取得後 **3ヶ月以内**に、
77% は**6ヶ月以内**に **昇給**

- ・ 前回の調査と比較して、今回は昇給した受験者は少なく、COVID-19が影響したと思われる。
- ・ 中華圏、インド、その他のアジア太平洋(日本を除く)、中南米の受験者、および特定の専門分野(3Dモデリング、XR、DevsOps、オープンソース、コラボレーションなど)の認定資格を取得した人は、昇給する傾向にありました。
- ・ 昇給した受験者の50%が6%～20%の昇給を得ており、2020年の平均昇給率2.5%を大きく上回っています。(ECA Internationalの『2020-2021 Salary Trends Report(給与動向レポート)』より)

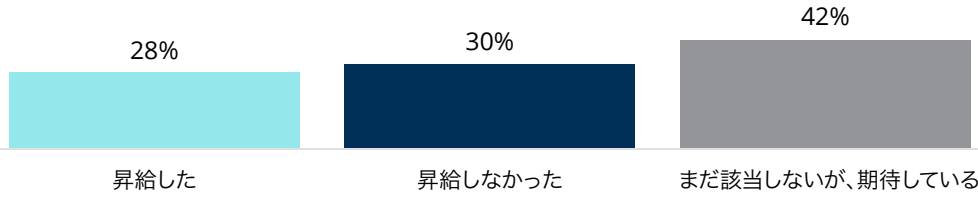
昇給の割合

28%の受験者が昇給しました。昇給率の詳細は以下の通りです。

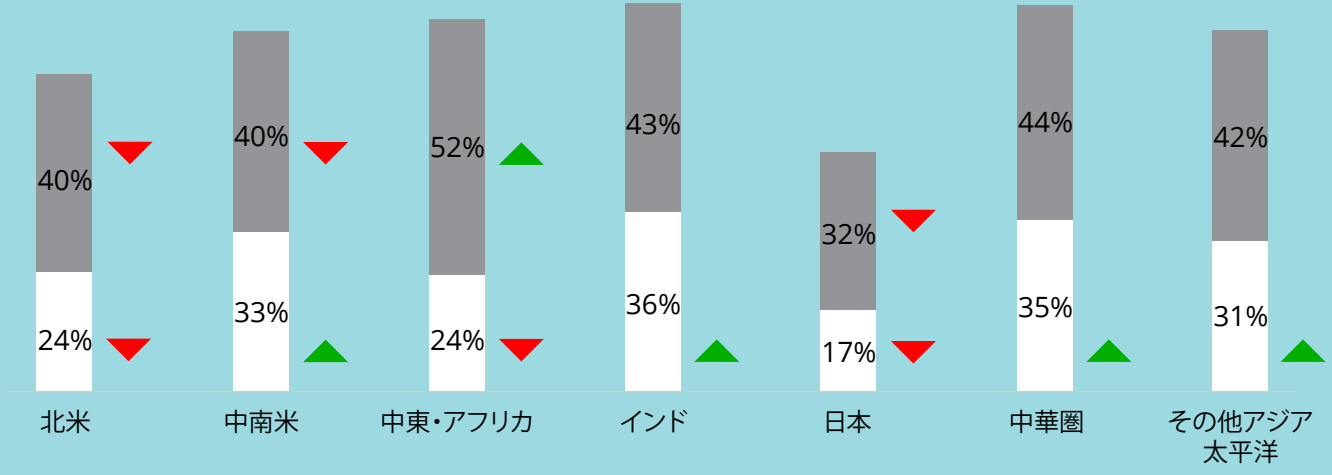
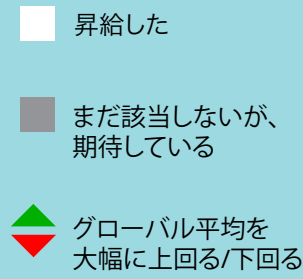
昇給率	受験者の割合
50%以上	7%
31-50%	9%
21-30%	13%
11-20%	23%
6-10%	27%
5%以下	22%



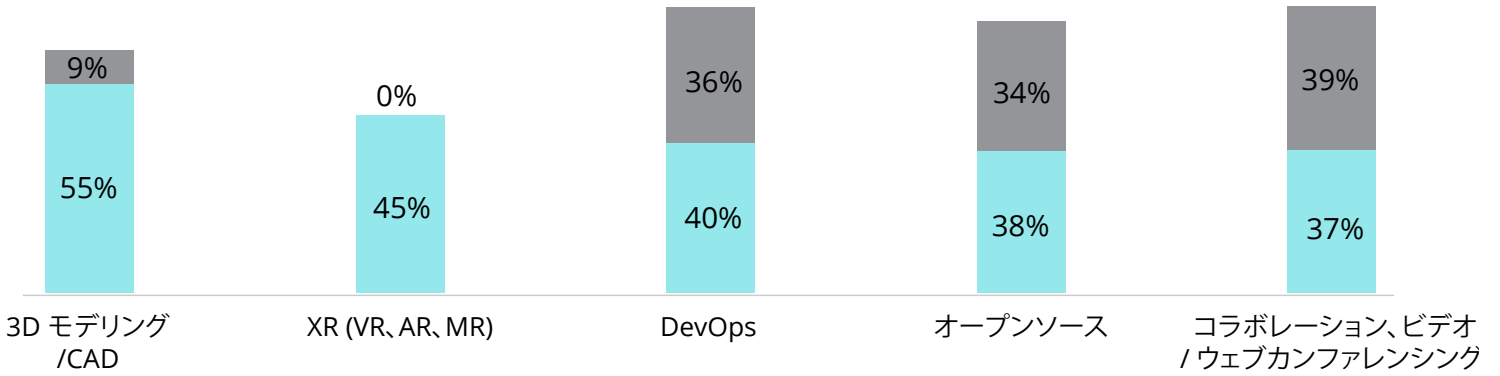
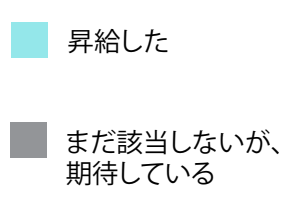
グローバルでの昇給



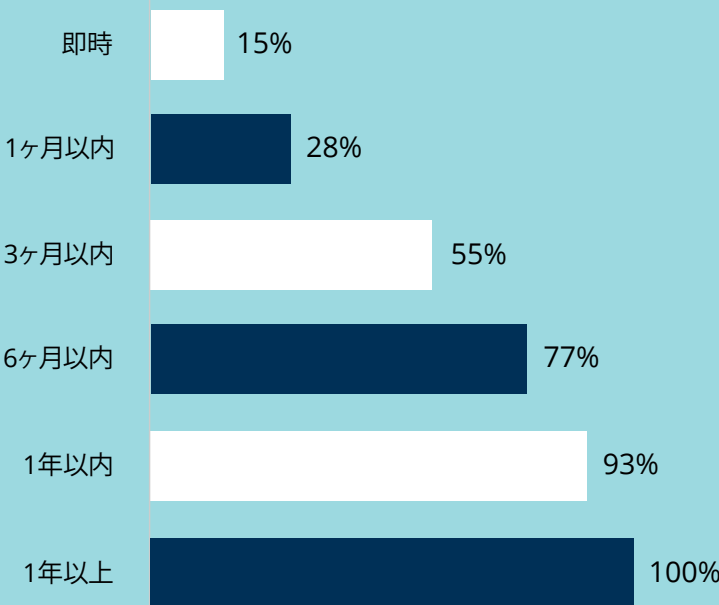
地域別での昇給



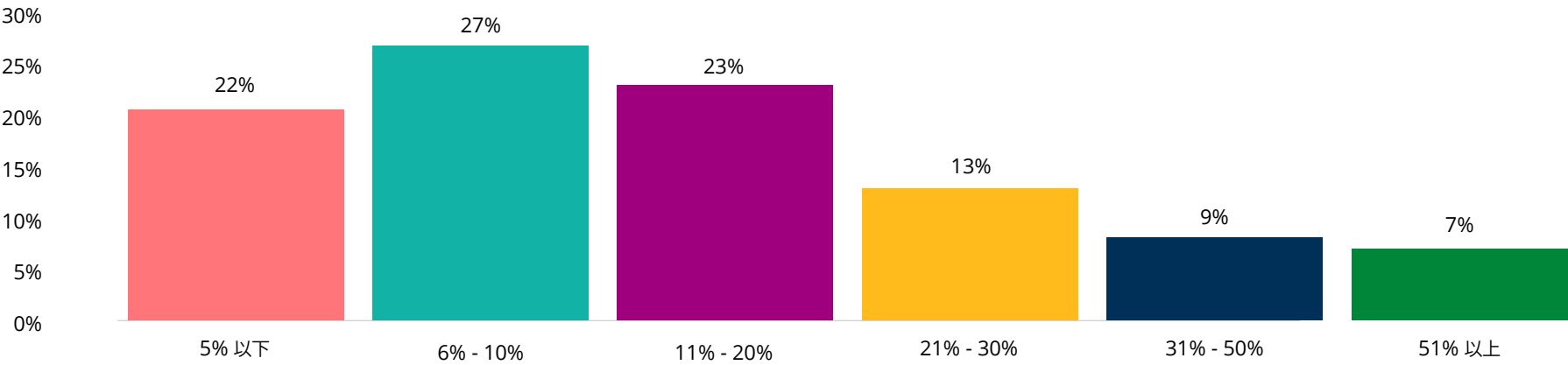
特定分野での昇給



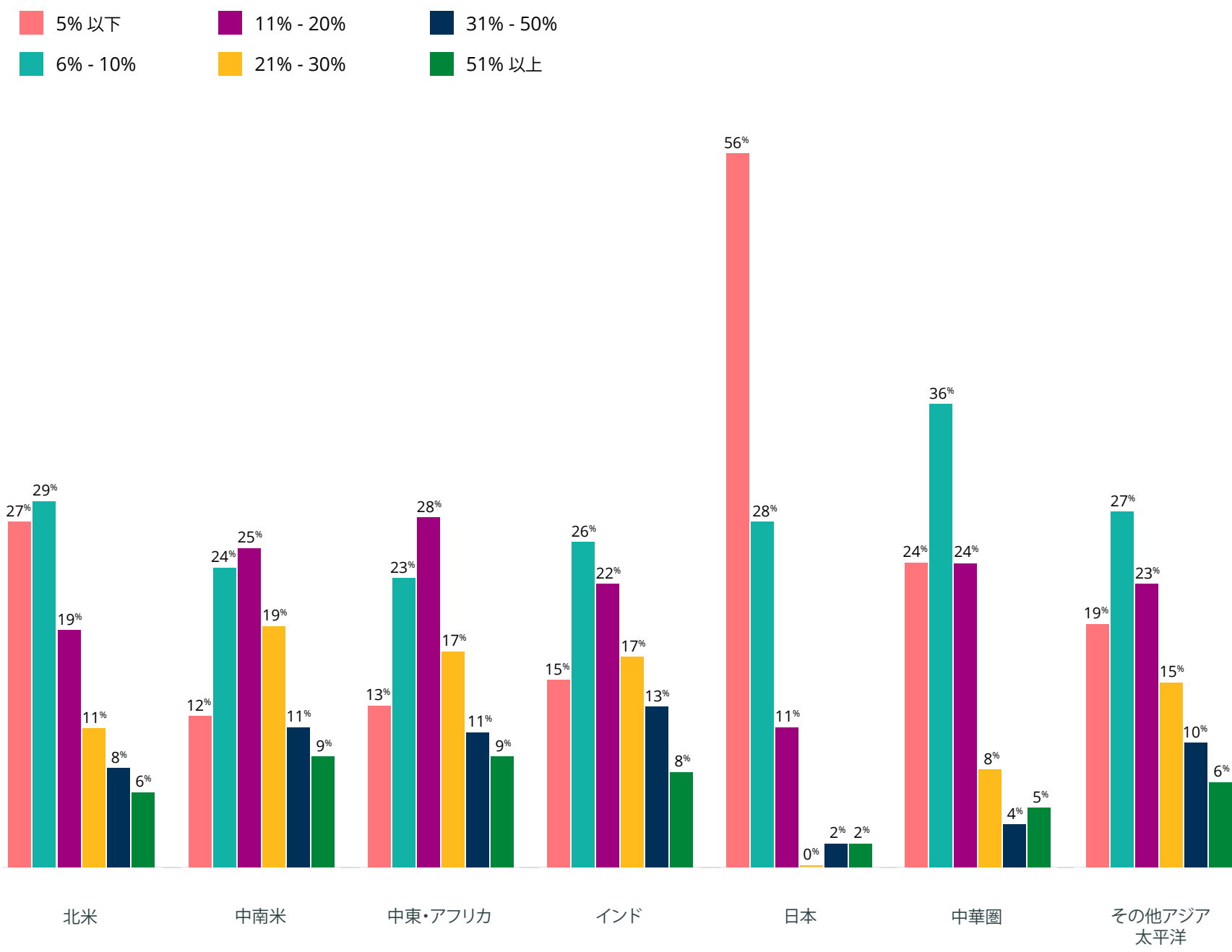
昇給までの期間
(累積)



昇給率 - グローバル



昇給率 - 地域別



その他の外発的 (有形、測定可能) メリット

受験者は昇給以外にも、昇進や昇格(21%)、新しい仕事の機会など、認定資格による具体的なメリットを得ています。また、23%が同じ業界で、13%が異なる業界で新たな仕事を見つけました。

“認定資格を取得したことで、より良い収入と新しい仕事を手にしました。”

– マイクロソフト認定資格ホルダー (ブラジル)

同業界での転職 **23%**

昇進や昇格 **21%**

異業界への転職 **13%**



内発的 (個人的) メリット

外発的なメリットだけでなく、受験者は認定資格取得により自分の能力に対する自信、成功へのより強い決意、同僚からの信頼度の高まり、また、仕事の満足度や仕事における自主性の向上といった、多くの内発的なメリットを享受していました。

自信が高まった **91%**

プロフェッショナルとして成功するための決意がより強固になった **84%**

同僚たちからの信頼度が高まった **76%**

仕事における満足度が上がった **76%**

業務を実行する際の自立性が向上し他者に対する依存度が低下した **74%**



認定資格に関する主要な目的を達成しましたか？

受験者に、認定資格取得を計画した最も重要な理由と、目的を達成したかどうかを尋ねたところ、大多数の受験者(70%)は、これらの主要な目的を達成したと回答しました。達成できなかったのはわずか3%で、残りの26%はまだ達成していないが、期待していると回答しました。スキルアップを最も重視する受験者の成功率が最も高い82%だったのは驚くことではありません。また、主にプロフィールや履歴書を充実させたいと考えている受験者(77%)は、成功したと感じています。

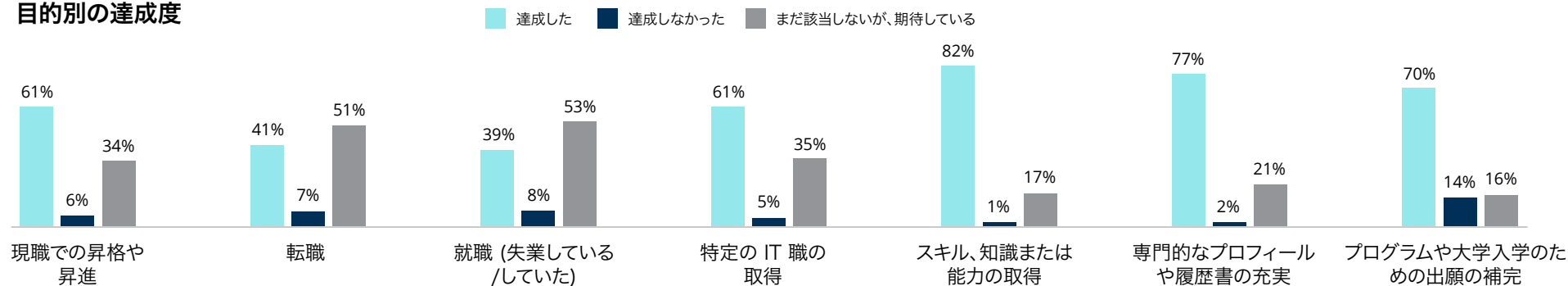
このアンケートを実施した時点では、昇進・昇格を希望していた受験者の61%が昇進を果たしていました。また、34%が楽観的な見方をしていました。さらに、61%が希望する特定のIT職に就くことができました。特に中華圏では成功率が高く、71%が希望する職種に就くことができました。

さらに、受験者の41%が新しい仕事を見つけ、39%が異なる業界でのキャリアに移行しました。

一番の目的は達成できましたか？

	グローバル	北米	中南米	中東・アフリカ	インド	中華圏	日本	その他アジア太平洋
はい、達成した	70.4%	73.9%	77.4%	63.6%	74.3%	62.5%	70.6%	70.9%
いいえ、達成していない	3.4%	3.6%	2.7%	2.8%	2.0%	3.6%	6.1%	2.7%
まだ該当しないが、期待している	26.2%	22.5%	19.9%	33.6%	23.7%	33.8%	23.3%	26.4%

目的別の達成度



雇用主が得たメリット

認定資格を取得することで得られるメリットの多くは、受験者とその勤務先組織の両方に好影響を与えます。仕事の質、生産性、効率性、革新性、および他人を指導する能力の向上などの成果は、仕事のプロセスや人材に直接的な利益をもたらし、最終的にはビジネスの収益性に影響を与えます。例えば、Global Knowledgeの『2020 IT Skills and Salary Report (2020年 ITスキルと給与に関するレポート)』によると、IT部門の意思決定者は、認定資格を持つ従業員 1 人あたりの投資対効果を約 10,000 USドルと見積もっています。

従業員が新たなIT認定資格を取得することで、組織がどのようなメリットを得られるのかをご覧ください。

認定資格を保有する従業員一人当たり

\$10,000
の投資対効果(推定)*

* Global Knowledge『2020 IT Skills and Salary Report(2020年 ITスキルと給与に関するレポート)』より

業務における質や価値が向上した **81%**

同僚を指導し、サポートする能力が向上した **80%**

仕事のプロセスを変革し、成果を高める能力が高まった **77%**

今までできなかった業務や役割をこなせるようになった **75%**

効率性が上がった
(より少ない時間での生産性が上がった) **72%**

生産性が上がった
(全体として生産性が上がった) **71%**



Coming soon!

今年の Value of IT Certification レポートは、従業員が認定資格を取得することで得られる雇用主の付随的な利益を考慮した初めてのレポートです。これらのポジティブな結果については、今後の Pearson VUE のレポートでより詳細な調査が行われる予定です。

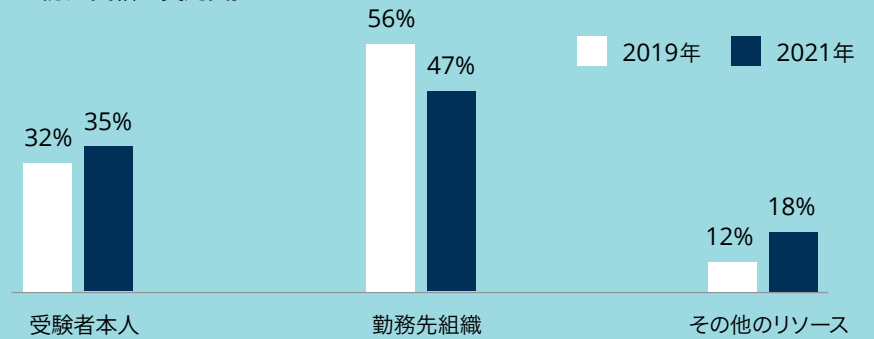
雇用主による スキルアップのための投資

先に述べたように、今年の調査結果では、2019年に発表したレポートと比較して、認定資格の費用を負担する雇用主が56%から47%に減少しました。また、雇用主が負担したトレーニングも60%から53%に減少しました。従業員のスキルアップに対する雇用主の投資の減少は、中華圏を除く全世界で発生しました。中国の雇用主による認定取得への投資は変わらず、トレーニングへの支出は大幅に増加しました。

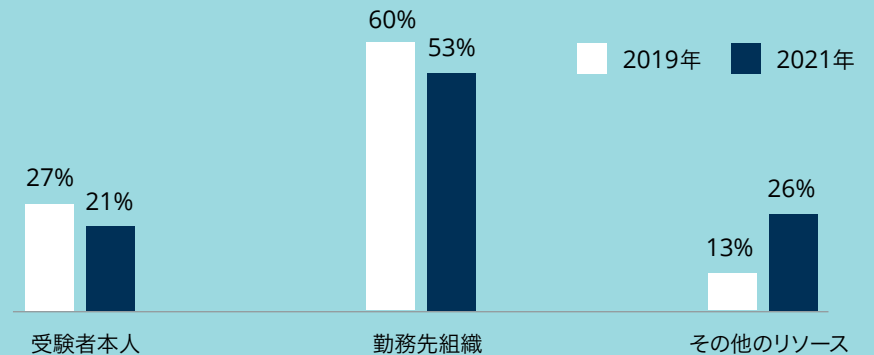
勤務先組織が認定資格の費用を負担した場合、従業員が社外に新たな就職先を求めることが少ないことがわかります(74%対87%)。従業員の離職は企業にとって大きな経済的損失となるケースが多いこと考えると、これは特に注目に値します。

認定資格およびトレーニングの費用負担 2019年から2021年のデータ推移 (グローバル)

認定資格の費用負担



トレーニングの費用負担



認定資格の受験のトレンド

2020年にPearson VUEが配信したIT関連試験は、前年比16%の増加となりました。また、パンデミックによりOnVUE-オンライン監督による自宅受験を選択した受験者は、300%以上の成長となりました。可能な限り層化抽出法を用いて、各IT認定資格の受験者の代表的な回答を得ました。

専門分野

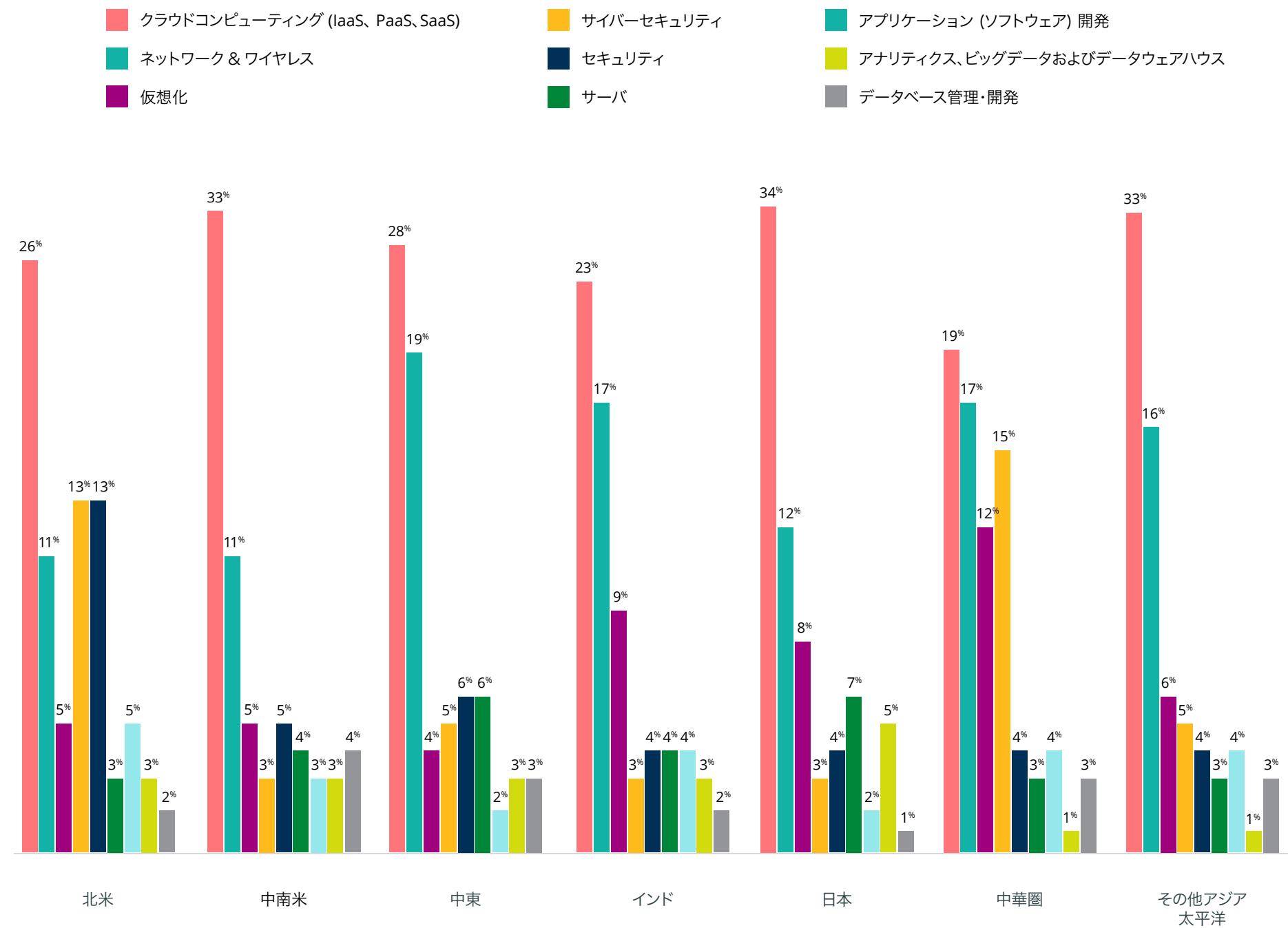
- ・ 2020年に取得された認定資格のうち28%がクラウドコンピューティングに関するもので、前回の164%でした。
- ・ ネットワーク&ワイヤレスの認定は15%の受験者が取得していますが、この分野の数値は23%減少となりました。
- ・ 2019年以降、成長率が高かったその他の専門分野は、DevOps、エンタープライズ・アーキテクチャ、およびビジネススキルでした。
- ・ セキュリティへの関心は、中華圏と北米で最も高い数値を示しています。



	専門分野	2019年	2021年	19-21年 の増減率
1	クラウドコンピューティング (IaaS、PaaS、SaaS)	11%	28%	164%
2	ネットワーク & ワイヤレス	19%	15%	-23%
3	仮想化	7%	7%	-9%
4	サイバーセキュリティ	NA	7%	NA
5	セキュリティ	16%	6%	-65%
6	サーバ	5%	5%	-13%
7	アプリケーション (ソフトウェア) 開発	5%	4%	-19%
8	アナリティクス、ビッグデータ およびデータウェアハウス	4%	3%	-8%
9	データベース管理・開発	6%	3%	-50%
10	エンタープライズ・アーキテクチャ	2%	3%	63%
11	ビジネススキル	1%	2%	62%
12	CRM & ERP	2%	2%	11%
13	オペレーティングシステム	3%	2%	-41%
14	DevOps	0.8%	1.8%	125%
15	ストレージ	3.5%	1.7%	-51%
16	ビジネス・アプリケーション およびデスクトップ生産性ソフトウェア	1.0%	1.5%	50%
17	ヘルプデスク	1.6%	1.4%	-13%
18	IoT/クラウド・コンバージェンス	0.9%	1.3%	44%
19	ウェブ開発	1.6%	1.3%	-19%
20	人工知能(AI)/機械学習(ML)	NA	1.0%	NA
21	プロジェクトマネジメント、アジャイル および/またはスクラム	1.6%	1.0%	-38%
22	コラボレーション、ビデオ/ウェブ カン ファレンシング	1.1%	0.8%	-27%

23	eコマース/eビジネス	0.7%	0.6%	-14%
24	リーダーシップ、マネジメント	0.8%	0.5%	-38%
25	モバイル	0.7%	0.4%	-43%
26	品質管理	1.1%	0.3%	-73%
27	ボイスエンジニアリング	0.2%	0.3%	50%
28	ミドルウェア	1.4%	0.2%	-86%
29	オープンソース	0.5%	0.2%	-60%
30	3D モデリング/CAD	0.3%	0.1%	-67%
31	マルチメディア・プロダクション、 グラフィックデザイン	0.0%	0.1%	NA
32	XR (VR、AR、MR)	NA	0.0%	NA
33	ゲーム開発	NA	0.0%	NA

専門分野 - 地域別

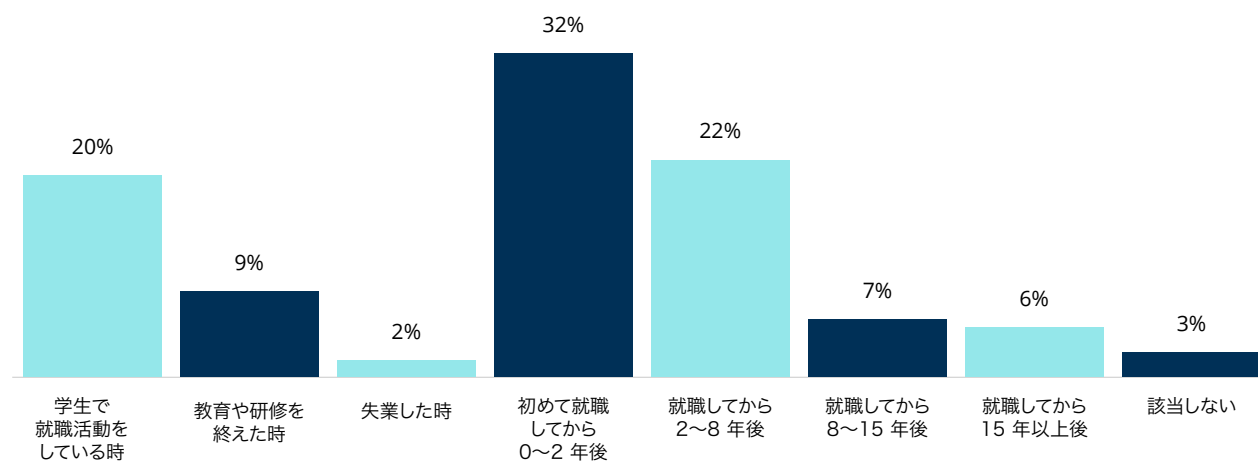


初めての認定資格を目指す受験者と 認定資格を複数保有している受験者の比較

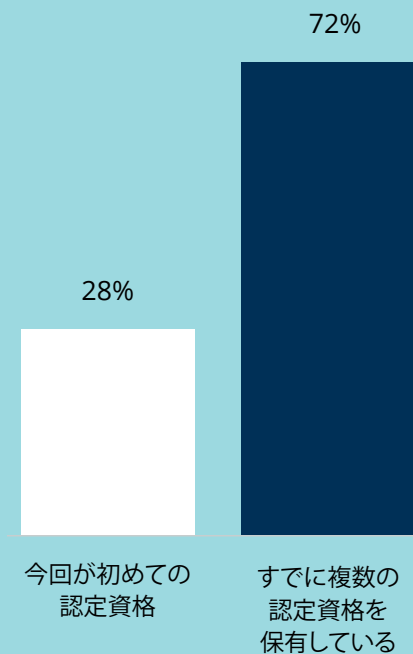
調査データによると、回答者の28%が初めて認定資格の取得を目指したことがわかりました。初めて認定資格を目指した受験者は、キャリアをスタートしたばかりの人の割合が高く、中堅・上級職の人は、すでに複数の認定資格を取得していました。また、在学中や入社前に最初の資格を取得した人は3割にも満たない結果となりました。半数以上の人々が、キャリアをスタートしてから8年以内に認定資格取得の必要性を実感しています。

初めての取得でない受験者の平均保有資格数は7でした。認定資格の保有数は、在学期間や勤務年数に応じて増加しており、認定資格による新たなスキルの追求は生涯にわたるものであることがわかります。

最初に認定資格を目指した時期



初めての取得者と 複数保有者の割合

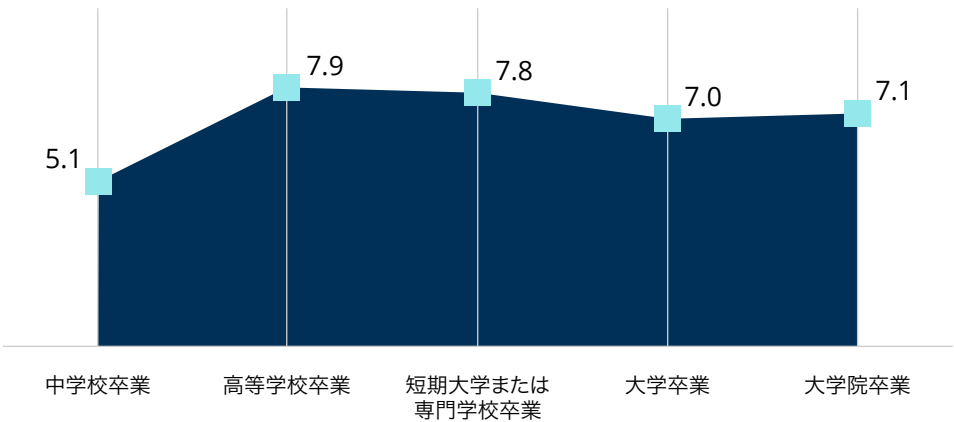


認定資格の平均保有数 - 地域別

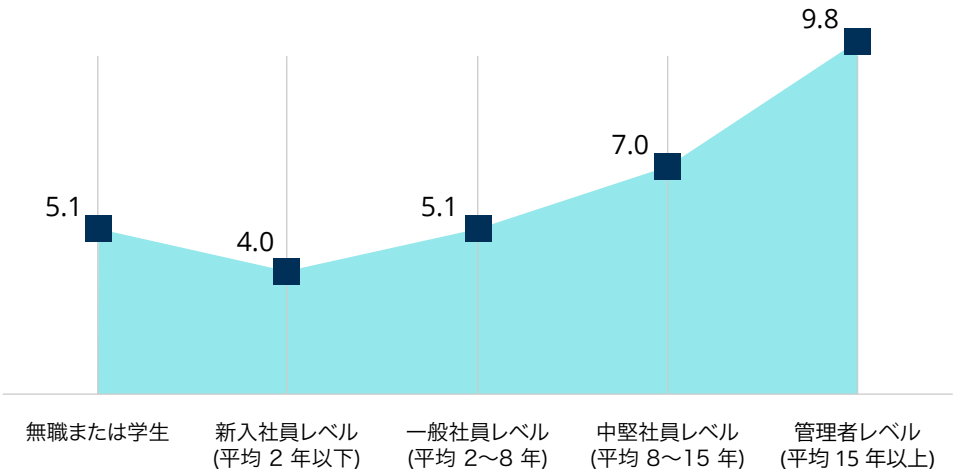
	グローバル平均	北米	中南米	中東・アフリカ	インド	日本	中華圏	その他アジア太平洋
合計保有数	7.08	7.14	6.13	5.4	8.33	7.01	7.31	7.53

認定資格の平均保有数 - 学歴/キャリアレベル別

学歴別 保有数



キャリアレベル別 保有数



試験の準備方法

試験の準備には、自己学習型の教材がよく使われます。今回の調査では、回答者の半数以上が無料の教材を利用し、32%が有料の自習用教材を利用しました。約4人に1人の回答者が、民間企業や勤務先組織が主催するトレーニングコースに参加しました。民間企業によるトレーニングは、最も効果的な準備方法と考えられていました。

準備方法

	グローバル平均	北米	中南米	中東・ アフリカ	インド	日本	中華圏	その他アジア 太平洋
民間のトレーニング機関	28%	25%	23%	29%	26%	24%	41%	30%
勤務先組織	25%	23%	26%	21%	35%	19%	30%	28%
教育機関のコース	15%	17%	17%	16%	17%	7%	18%	14%
自主学習用の教材を購入	32%	37%	30%	29%	24%	42%	30%	27%
デジタルまたは印刷物の教材を購入	16%	21%	18%	16%	11%	17%	16%	14%
無料の学習教材	53%	58%	64%	60%	52%	35%	37%	58%
模擬試験	37%	52%	38%	46%	38%	14%	25%	43%
実技用ラボ	25%	30%	26%	34%	27%	10%	17%	29%

最も効果的だった準備方法

	グローバル平均	北米	中南米	中東・ アフリカ	インド	日本	中華圏	その他アジア 太平洋
民間のトレーニング機関	1.66	1.68	1.71	1.81	1.66	1.3	1.34	1.65
勤務先組織	1.67	1.73	1.67	1.77	1.51	1.36	1.71	1.75
教育機関のコース	1.98	1.89	2.02	2.04	1.92	1.51	2.07	2.09
自主学習用の教材を購入	2.05	2.17	2.08	2.09	2.16	1.55	2.08	2.16
デジタルまたは印刷物の教材を購入	2.45	2.6	2.4	2.37	2.56	1.69	2.57	2.77
無料の学習教材	2.05	2.3	1.94	1.99	1.96	1.82	2.24	2.07
模擬試験	2.28	2.3	2.29	2.34	2.37	1.91	2.07	2.22
実技用ラボ	2.5	2.7	2.5	2.4	2.46	2.1	2.43	2.48

それぞれの方法の有効性を5段階で評価（1 = 最も有効だった、5 = 最も効果的ではなかった）

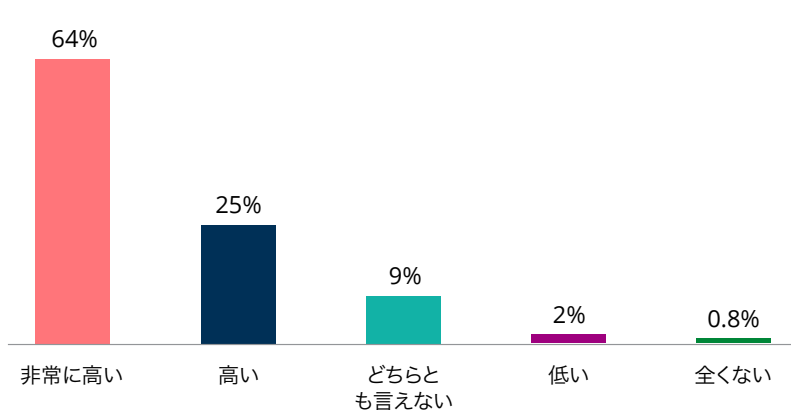
今後のプラン

IT 認定資格業界の将来は有望に見えます。回答者の多くは、同僚に認定取得を勧めるだけでなく、自らも認定資格取得の努力を続け、知識やスキルセットを増やしていくつもりと回答しています。

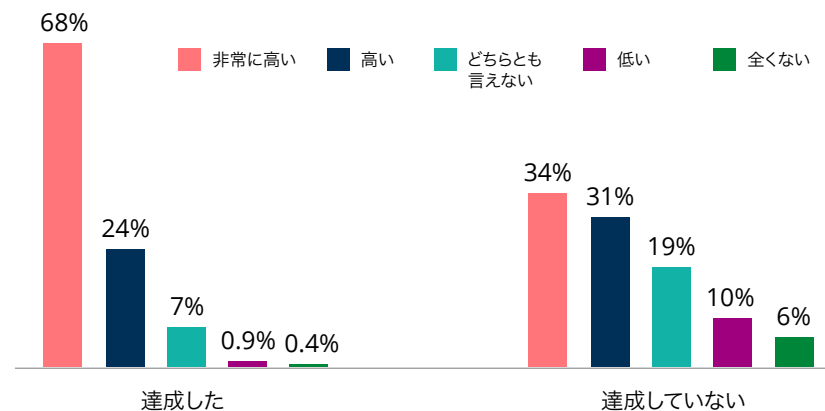
認定資格を推奨する可能性

- ・ 受験者の89%は、IT系のキャリアを始めたい人やキャリアアップしたい人に認定資格の取得を勧める
- ・ 目的を達成した人が他の人に資格取得を勧める割合*は、達成しなかった人に比べて40%高い *「非常に高い」+「高い」と回答した人の割合

推奨の可能性

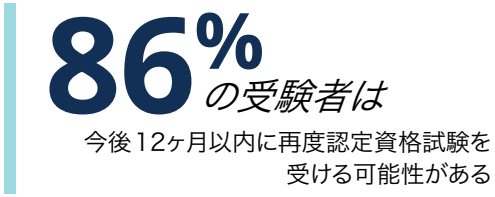


目標の達成状況別での推奨の可能性

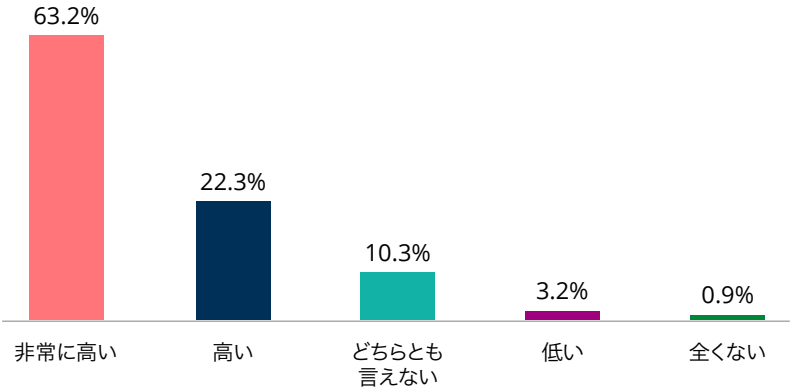


今後12ヶ月以内に再度認定試験を受ける可能性

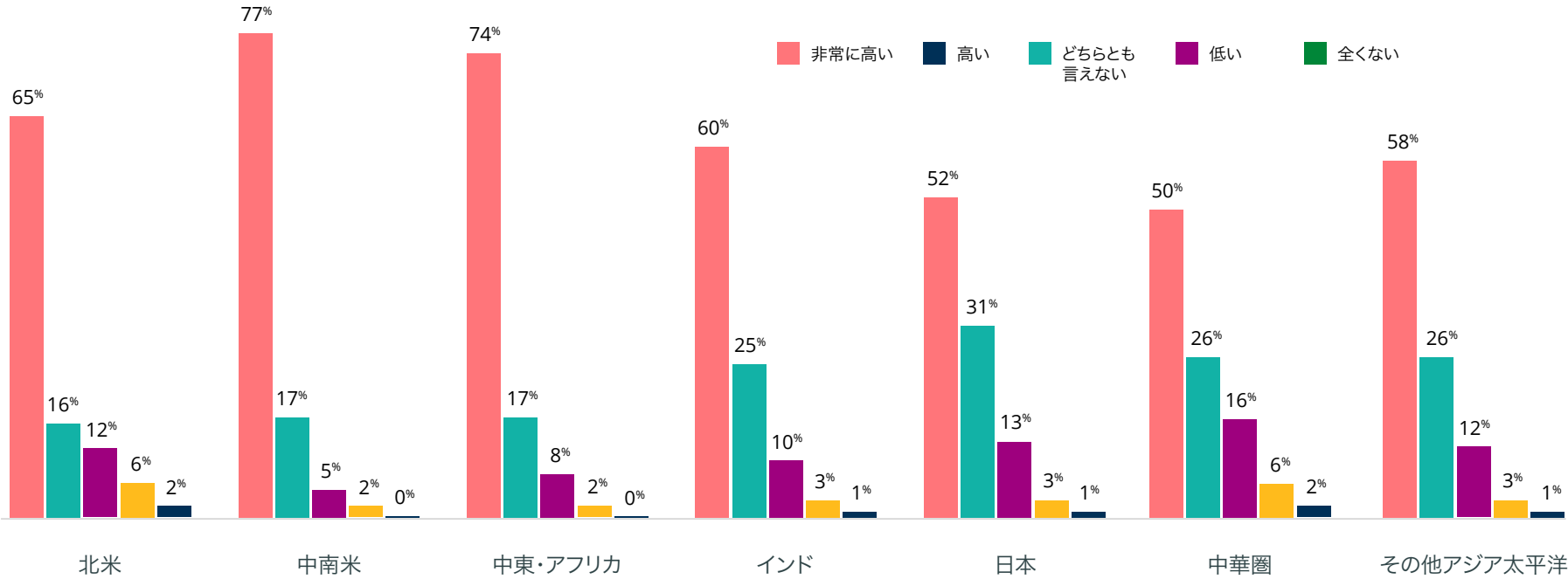
- 86%の受験者が今後12ヶ月以内に再度認定資格試験を受ける可能性があると回答しました。最も関心が高い専門分野は、クラウド、ネットワーク&ワイヤレス、仮想化、サイバーセキュリティ、セキュリティ、サーバでした。



今後12ヶ月以内に認定資格を目指す意欲



再度認定資格を目指す意欲 - 地域別



興味のある専門分野と成長予測

	専門分野	2021年	2022年 予測	21年-22年 成長率
1	クラウドコンピューティング (IaaS、PaaS、SaaS)	28%	50%	78%
2	ネットワーク & ワイヤレス	15%	23%	60%
3	仮想化	7%	28%	324%
4	サイバーセキュリティ	7%	33%	405%
5	セキュリティ	6%	27%	366%
6	サーバ	5%	22%	383%
7	アプリケーション(ソフトウェア)開発	4%	14%	267%
8	アナリティクス、ビッグデータ およびデータウェアハウス	3%	18%	445%
9	データベース管理・開発	3%	12%	325%
10	エンタープライズ・アーキテクチャ	3%	9%	246%
11	ビジネススキル	2%	11%	400%
12	CRM & ERP	2%	6%	200%
13	オペレーティングシステム	2%	13%	555%
14	DevOps	1.8%	19%	944%
15	ストレージ	1.7%	16%	853%
16	ビジネス・アプリケーション およびデスクトップ生産性ソフトウェア	1.5%	6%	327%
17	ヘルプデスク	1.4%	5%	229%
18	IoT/クラウド・コンバージェンス	1.3%	14%	969%
19	ウェブ開発	1.3%	10%	685%
20	人工知能(AI)/機械学習(ML)	1.0%	20%	1940%
21	プロジェクトマネジメント、アジャイル および/またはスクラム	1.0%	11%	970%
22	コラボレーション、ビデオ/ウェブ カンファ レンシング	0.8%	4%	425%
23	eコマース/eビジネス	0.6%	5%	650%
24	リーダーシップ、マネジメント	0.5%	9%	1600%
25	モバイル	0.4%	5%	1125%
26	品質管理	0.3%	3%	1000%
27	ボイスエンジニアリング	0.3%	3%	833%
28	ミドルウェア	0.2%	3%	1150%
29	オープンソース	0.2%	6%	2750%
30	3D モデリング/CAD	0.1%	2%	2000%
31	マルチメディア・プロダクション、グラフィッ クデザイン	0.1%	1%	1300%
32	XR (VR、AR、MR)	0.0%	2%	NA
33	ゲーム開発	0.0%	3%	NA

認定資格、トレーニング、またはその両方への関心

関心のある専門分野	トレーニングと 認定資格の両方	トレーニング のみ	認定資格 のみ
サイバーセキュリティ	67%	4%	29%
セキュリティ	64%	5%	32%
ボイスエンジニアリング	62%	10%	29%
プロジェクトマネジメント、アジャイルおよび/またはスクラム	61%	6%	33%
ネットワーク & ワイヤレス	60%	5%	35%
リーダーシップ、マネジメント	59%	9%	32%
アナリティクス、ビッグデータおよびデータウェアハウス	59%	6%	36%
エンタープライズ・アーキテクチャ	59%	7%	35%
仮想化	58%	6%	35%
マルチメディア・プロダクション、グラフィックデザイン	56%	13%	31%
ゲーム開発	56%	16%	28%
クラウドコンピューティング (IaaS、PaaS、SaaS)	56%	4%	40%
コラボレーション、ビデオ/ウェブ カンファレンシング	56%	10%	34%
3D モデリング/CAD	56%	12%	33%
モバイル	56%	11%	33%
人工知能(AI)/機械学習(ML)	56%	8%	37%
ヘルプデスク	56%	8%	37%
DevOps	55%	6%	39%
IoT/クラウド コンバージェンス	55%	11%	35%
サーバ	54%	7%	39%
ストレージ	54%	9%	38%
eコマース/eビジネス	53%	10%	37%
オペレーティングシステム	53%	8%	40%
ビジネススキル	53%	10%	38%
XR (VR、AR、MR)	51%	12%	37%



IT 認定資格： 需要、評価、および影響力において 高まっている

IT 認定資格の価値は、これまで以上に強調されるべきものです。この一年で、クラウドやワイヤレスネットワーク技術が急速に導入されたことで、より機動的で熟練したITチームが必要になり、そしてそれは多くの組織で不足していることがわかりました。

世界がCOVID-19の危機から回復し始めた今でも、リモートによる勤務、学習、および相互の繋がり(コミュニケーション)は、少なくとも部分的にはこれからも続くと思われるます。認定資格保有者は、そのスキルや知識、影響力を必要とされるでしょう。

今回の調査結果によると、IT分野の人たちはこれらの傾向を同様に捉えており、認定資格の価値を認識し、課題とニーズの両方に対応する準備ができています。

当社は、2020年に前年比16%増のIT認定試験を配信しており、そのほとんどの費用は受験者自身が負担していました。これは、認定資格だけでなく、キャリア開発やプロフェッショナルであることに対す

る強いコミットメントを示唆しています。回答者はすでに平均で7つの認定資格を保有しており、86%が12ヶ月以内に新たな専門分野の認定資格を目指す予定であると回答しました。ほとんどの回答者は、認定資格取得によってスキルギャップを埋め、仕事のパフォーマンスを向上させることができただけでなく、昇給や昇進、そしてリーダーや同僚からの新たな評価を得ることができました。

また、効果を実感したのは受験者だけではありませんでした。雇用主は、仕事の質や生産性、効率性の向上、および指導能力の強化を実現した従業員を獲得することで、認定資格のメリットを享受していました。

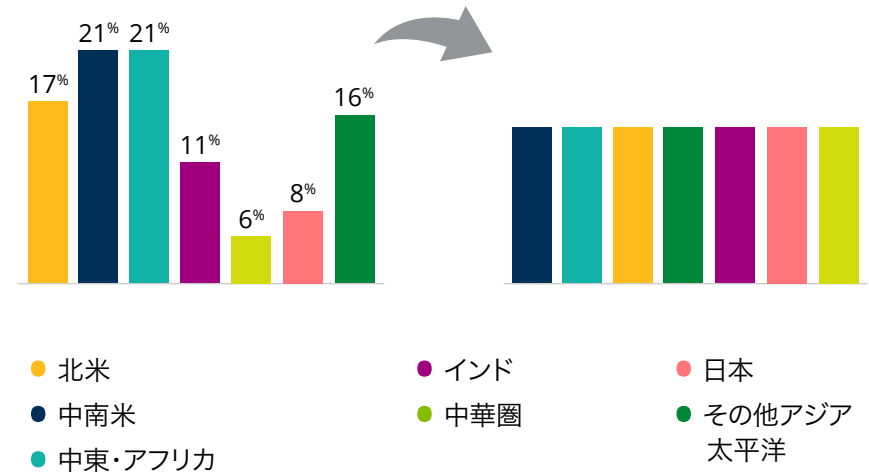
これらは長期的な傾向であり、認定資格の妥当性と実証された価値はさらに高まっていくと確信しています。

これらは長期的な
傾向であり、
認定資格の妥当性と
実証された価値は
今後さらに高まっていくと
確信しています。

調査方法

2019年11月から2020年10月までの期間に認定資格試験を受験した受験者から、無作為抽出の337,000人に対し、アンケートへの協力依頼のEメールを送信しました。これらの試験は、オンラインまたは世界中のPearson VUE公認テストセンター(PVTC)で実施されたものです。4つに分けられた地域ごとに、先着100名の回答者に10米ドル相当のギフトカードを謝礼として用意し、世界160カ国、約29,000人から回答を得ました。

北米、中南米、中東・アフリカ、インド、中華圏、日本、およびその他アジア太平洋の国々の受験者がアンケートに協力しました。右図に示すように、中東・アフリカと中南米の回答がそれぞれ21%を占めているのに対し、中華圏の回答は6%にとどまっています。各地域からの回答を正規化するために、グローバルでの加重平均値を算出しました。



回答者の属性

性別

	グローバル平均	北米	中南米	中東・ アフリカ	インド	日本	中華圏	その他アジア 太平洋
男性	83%	76%	85%	83%	82%	85%	85%	82%
女性	15%	19%	14%	16%	16%	13%	10%	15%
回答しない	3%	5%	1%	1%	2%	2%	5%	3%

年齢

	グローバル平均	北米	中南米	中東・ アフリカ	インド	日本	中華圏	その他アジア 太平洋
18 歳未満	0.2%	0.4%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.4%	0.1%
18-24 歳	10%	6%	5%	11%	20%	8%	14%	8%
25-34 歳	39%	26%	41%	51%	50%	32%	39%	41%
35-44 歳	31%	31%	36%	29%	25%	31%	31%	34%
45-54 歳	14%	22%	14%	8%	4%	23%	13%	12%
55-64 歳	4%	11%	3%	1%	0%	5%	2%	2%
65 歳以上	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
回答しない	1%	3%	0%	1%	1%	1%	2%	2%

学歴

	グローバル平均	北米	中南米	中東・ アフリカ	インド	日本	中華圏	その他アジア 太平洋
中学校卒業	1%	1%	0%	1%	1%	1%	1%	1%
高等学校卒業	9%	11%	5%	16%	4%	10%	5%	7%
短期大学または専門学校卒業	11%	18%	9%	7%	3%	14%	14%	8%
大学卒業	36%	34%	11%	40%	15%	57%	62%	40%
大学院卒業	44%	37%	74%	36%	77%	19%	19%	44%

就学状況

	グローバル平均	北米	中南米	中東・ アフリカ	インド	日本	中華圏	その他アジア 太平洋
全日制（フルタイム）の学生/学生だった	13%	16%	9%	17%	18%	6%	17%	13%
定時制（フルタイム）の学生/学生だった	8%	8%	12%	13%	7%	1%	4%	8%
学生ではない	79%	76%	79%	71%	75%	93%	80%	80%

キャリアレベル

	グローバル平均	北米	中南米	中東・ アフリカ	インド	日本	中華圏	その他アジア 太平洋
該当しない	2%	2%	3%	2%	1%	2%	1%	1%
新入社員レベル (平均 2 年以下)	12%	12%	7%	16%	15%	11%	13%	11%
一般社員レベル (平均 2～8 年)	29%	22%	29%	34%	37%	23%	30%	29%
中堅社員レベル (平均 8～15 年)	28%	23%	30%	23%	30%	35%	24%	30%
管理者レベル (平均 15 年以上)	25%	35%	31%	16%	12%	26%	25%	24%
無職または学生	5%	6%	1%	9%	6%	3%	6%	4%

勤務先組織の規模

従業員数(人)	グローバル平均	北米	中南米	中東・ アフリカ	インド	日本	中華圏	その他アジア 太平洋
10 未満	8%	11%	6%	16%	6%	5%	5%	7%
10-49	10%	8%	14%	17%	5%	5%	13%	12%
50-99	7%	6%	10%	10%	3%	5%	9%	8%
100-199	9%	6%	11%	9%	5%	7%	12%	9%
200-499	10%	7%	10%	10%	6%	11%	13%	13%
500-999	8%	6%	8%	9%	6%	12%	10%	8%
1,000-1,999	9%	7%	9%	8%	5%	13%	9%	9%
2,000-4,999	8%	7%	8%	7%	5%	15%	7%	9%
5,000-9,999	7%	7%	7%	5%	6%	8%	6%	7%
10,000 以上	24%	35%	17%	10%	53%	20%	18%	18%

一度の試験で、 グローバルな変化をもたらす

Pearson VUEは、世界各地でハイステークス試験を開発・配信し、地域社会を守り発展させる専門的な職業の資格や免許の交付を支援しています。当社の試験テクノロジーは、重要な資格や免許の取得を可能にし、ほぼすべての業界の進歩を促進しています。

詳細については PearsonVUE.co.jp または PearsonVUE.com をご覧ください。

